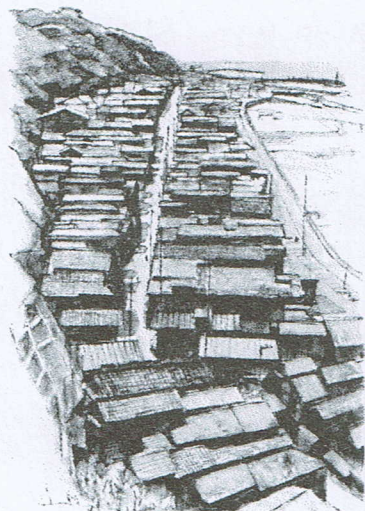




出雲崎の街並を見学して
出雲崎高校 教諭 山崎 剛志

2009年の春に出雲崎高校に赴任してから地歴・公民科の科目郷土学を担当させていただいています。その科目は、新潟県及び地元歴史などを取り上げる本校独自の科目です。

さて、二年間の中で、授業の校

妻入りの街並を歩き 出雲崎の歴史を学ぶ 出雲崎高校 校外研修

かわらばん 妻入り

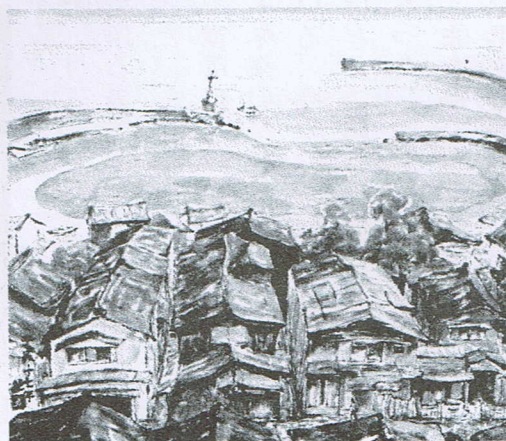
事務局
新潟県出雲崎町
教育委員会
☎0258-78-2250
FAX 78-4559

外研修の実施は合計三回でした。その中で、特に生徒が印象深く感じていたのは『妻入りの街並』でした。観光ガイドの渡辺様よりガイドをしていただき、良寛堂・芭蕉園・北国街道妻入り会館などを丁寧に説明していただきました。私も生徒も聞き漏らすまいと思い、拝聴したことを覚えております。妻入りの街並は、実際に住んでいる方が生活している空間です。その佇まいは、素朴で落ち着いていながら日常の生活感にあふれているように感じています。

いわゆる観光地と呼ばれるところは、地域によっても違いますが、しばしば喧噪があり、人の多さを煩わしく思う方もいるかもしれません。その点、妻入りの街並は、その素朴さと落ち着きが訪れる人の心に感銘を与えています。

私は、歴史と伝統に培われた出雲崎町で働けることをとても光栄に思っています。授業の校外研修の機会があれば、生徒とともに街

並を再訪したいと思っています。今後もしよろしく願いいたします。



妻入りの街並を見学して

出雲崎高校三年

江口 ひかり

昨年十月、郷土学の授業の一環である校外研修で、良寛堂と妻入りの街並を見学させていただいたところ、私は正直言って、一

つの町の歴史や文化を学ぶ郷土学には、余り興味はなかった。同じ歴史なら、多くの国が様々な駆け引きをするようなものの方が大好

きだった。

しかし、今まで地元の方から愛され続けている良寛の生家跡に建つ良寛堂や、現在も人々が生き生きと暮らしている妻入りの街並を見学させていただいて、その考えが一変した。実際にその場所を見学したり、お話をうかがったりする事が、こんなに素晴らしいと思う。これなんて考えもしなかった。

これを機に、自分の地元に興味を持つとともに、こういった古き良き街並が、これからずっと残っていてほしいと思う。

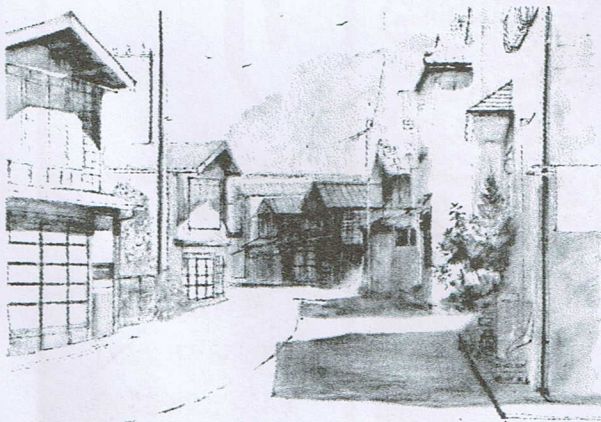
出雲崎町を見学して

出雲崎高校三年

五十嵐 賢太

私は、出雲崎の出身の人ではないので、出雲崎町についての知識がありませんでした。

まず、一回目に妻入りの街並を見学しました。妻入りの街並にある家は、どの家も道路から見て、奥行きのあることがわかりました。



ガイドの人の話では、江戸時代には、道路に対して、奥行きのある家にすれば、税の負担は少なくてすむと説明していただきました。

二回目は、天領の里に行きました。館内では、江戸時代に出雲崎が直轄地であったことが書いてある説明を見て、江戸幕府がとても重要な場所としていたことがわかりました。

また機会があれば出雲崎に行きたいと思います。

大盛況!! 天神さま街道 & 天神さま講演会

妻入り会館や天領の里時代館で毎年行っている「天神さま」の像・軸展示を、今年は柏崎地区と協同し、『天神さま街道』として全15会場で開催しました。

また、2月13日には、前柏崎市立博物館館長の三井田忠明氏を講師に『天神さま講演会』を妻入り会館で開催し、町内外合わせて約70名の方が参加され、大変盛況でした。

『天神さま講演会』に参加された方々の感想を紹介します。

天神さま講演会に参加して

大門 磯部 友記雄

二月十三日「天神さま講演会」に参加した。定刻ギリギリに会場である北国街道妻入り会館に入っ



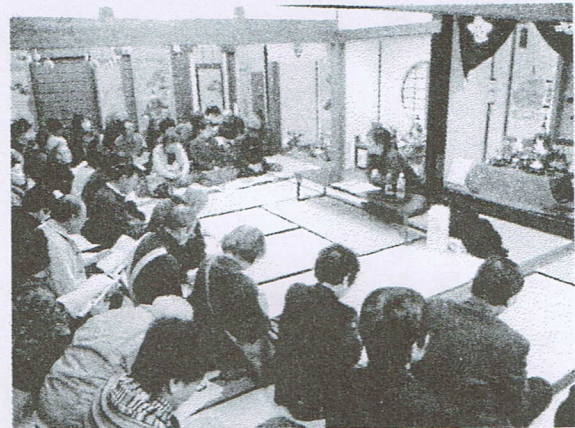
た。すでに講演会場は参加者多数で座る場所がない程の大盛況であった。

講師の三井田忠明さんとは、二十年来の付合をさせていただいている。昨年に続いていた講演で今回はどんな話が聴けるか楽しみであった。出雲崎町と柏崎での天神さまを飾る時期・飾る時の仕来り、お供え物等地域によって異なることが語られた。柏崎では十二月二十五日から大晦日までの間に家の主人又は、男性が飾り、その時に

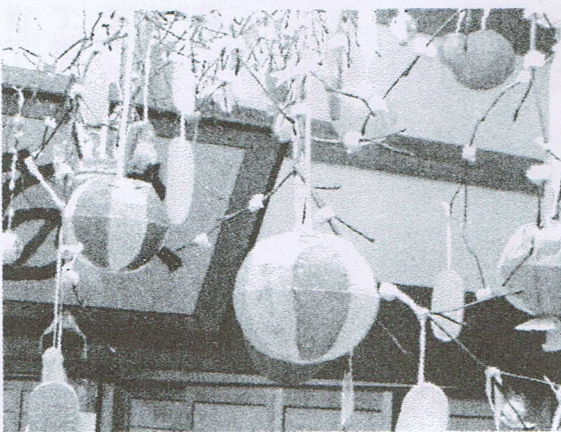


家を象徴するモノを一緒に飾ること。職人の家は聖徳太子、商家は御用札、農家は庚申様、医者は藩主の書など。供える物は干柿、昆布、スルメ、鐘餅と共に鮭の鰭やカマを供える家もあるとのこと。この風習は富山県氷見市や高岡市、福井県三国地方と共通する正月行事であり、これは江戸時代の北前船によって、運ばれたと思う。

出雲崎での天神さまの飾り方等について詳しく調査をした事もなく、ただ一月二十五日か二十六日に片付けている事は共通している。



私が小学生の頃には、石井町「多聞寺」の天神さまが大人の曳く輦台に載せられてくるのを心待ちに学校から走って帰った。親からお金（たしか五円か十円）をもらって、天神さまが来るのを待って友達と一緒に天神さまに駆け寄ってお金を渡してお菓子を貰い家に帰って天神さまの軸の前に供えてから食べたものである。現在は「天神さま」の練り歩きも絶え寂しいです。



今年から始まった「天神さま街道」で柏崎～出雲崎で十五ヶ所での展示と「綾子舞と天神講」が柏崎野田で開催されるとのこと。年々展示ヶ所が増え、地域の宝として継続され次世代に伝えられることを願っています。

まだまだ各家で飾られていると思われる「天神さま」や「天神講」等を出雲崎全町で調査し、出雲崎の宝物として大切に伝承してゆきたいものである。

妻入りの街(四十)

住吉町 磯野 猛

人物往来 新保 民八 ①

出雲崎町商工会の玄関に人物像があります。その像の碑面に次のような文章が誌されております。

正しきに

よりて 滅ぶる

者あらば

滅びるもより

断じて

滅びず

新保 民八

この像の新保民八さんは出雲崎町羽黒町出身の人で、昭和二十年代から三十年代の後半にかけて、日本の商業界に重要にして重大な影響を与えた人です。

昭和二十年八月の終戦から日本経済は極度のインフレに見舞われ、日本の商業、とりわけ小売業界は大変な時代でした。

戦後の混乱から商業全体が低迷

していた頃、日本の小売商業界の指針とでもいえるべき雑誌「商業界」の主幹として大活躍されたひとです。

この新保さんの影響を受けた人々は日本の経済界をリードした人も多くおられます。

石鹼の「花王」、お菓子の「不二家」、広告の「電通」、そして小売業から飛躍した「ジャスコ」「ダイエー」、県内では「コメリ」「コロナ」など数多くの企業があります。

新保民八さんは明治三十四年六月、羽黒町の鮮魚商、新保商店の長男として出生されました。屋号を「八卯」と称し古くからの鮮魚商でした。しかし民八さんが幼いころ父が天逝、一家の働き手を失った鮮魚店を閉じるという不運に遭遇されました。

民八さんは幼年時代から勉強家で小学校の成績も抜群だったと云われております。小学校六年生のとき新保家では生活のため民八さんを働かせることにしました。

しかし当時の小学校の先生たちの間ではこれだけの勉強家の民八少年を卒業でなく中学へ進学させたい念願から町の有力者に相談をもちかけられました。当時住吉町で

進学をすすめる町の有力者が相談して援助することに決定しました。その頃私たちの町へ相馬御風さんが鳥井家に訪れていたことから御風さんもこの話に誘われ、鮮魚商



醤油の製造をやっておられた鳥井儀資さんがこの話を聞き直接民八少年に逢って向学心の有無を問いただされました。少年の話を聞いた鳥井さんは早速民八少年の母に

の出身だから能生町の水産学校が良からうということになり、無事水産学校に入学することができました。大正八年、水産学校を卒業後は家のこともあつて出雲崎に勤

務しました。

鳥井儀資さんがクリスチャンであつたこともあり民八さんも新潟協会で洗礼を受けられます。向学心の強い民八さんは東京へ出て苦学するため神田の乾魚問屋に勤められました。主人と意見が合わず、大正十二年、霊南坂の教会神学校に入学します。その時期関東大震災に遭い、教会で迷子収容所の責任者として活躍します。その後京都に行き同志社大学に入学しました。鳥井さんの話によると当時東京で石鹼の製造をしていた長瀬商会で働いていたの事を聞きました。同志社大学へはこの長瀬商会の息子さんと一緒であつたと聞いております。その後この二人は米国へ渡りシカゴのノースセントラル大学を苦学しながら卒業しました。長瀬商会の好意でさらに英、仏、独と視察旅行後日本に帰国して再び長瀬商会に勤務します。これが後の「花王」となります。

街なみ整備助成金の

利用状況について(お知らせ)

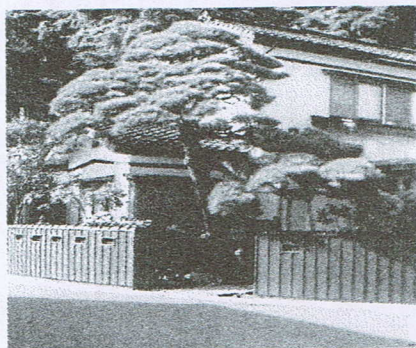
役場 建設課

妻入り街並みの修景と保存を目的として、平成十九年四月一日から「出雲崎街なみ整備助成金交付要綱」を施行してから四年が経過しました。

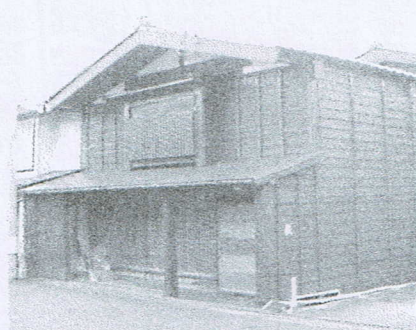
平成二十二年度末までに住宅の修景が四件、塀等の外構修景が三件の助成金の利用があり、街なみ修景にご協力いただき、感謝いたします。

この他にも本制度を使わず、個人的に街なみ景観に配慮した住宅の建築をされたり、室外器等の目隠しをされた方々も増え、街なみ整備の意識が少しずつ高まっているように感じています。

今回、本制度を利用して修景をしていただいた方々の施工例を一部紹介させていただきます。



井鼻3区 W様 外構(塀) 修景



尼瀬2区 S様 住宅修景

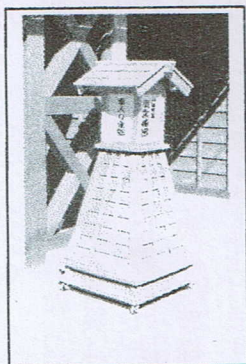


稲荷町 H様 住宅修景

今後も保存・修景をして下さる方々の負担を軽減したいと考えています。

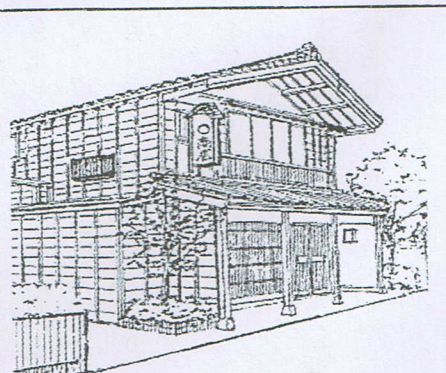
助成金の助成率は三分の二、限度額を一三三万円(重点地区は(尼瀬三区の一部から稲荷町の一部まで)二百万円)まで助成します。

ただし、統一感のある街なみを目的として、色彩や素材、建具の種類などの基本的な条件を定めていますので、詳細については役場建設課(78-2296)にお問い合わせ下さい。



(街なみに常夜灯を設置しました。)

また、平成二十三年度から「出雲崎町住宅リフォーム助成金交付制度」と「出雲崎町がんばる街なみ支援助成金交付制度」が施行され、一般住宅のリフォームや転入者の住宅支援、店舗の改修(地区要件有り)等の助成を行います。修景助成と併せて、積極的な制度の活用をお願いします。



住宅修景のイメージ

妻入り会館 パッチワーク 布絵キルト作品展示



妻入り会館では、柏崎市の「萌の会」の皆さんによる『パッチワーク布絵キルト作品』を展示しています。

心の中の光景が表現された素晴らしい作品です。この機会にぜひご覧ください。

つれづれに・・・

妻入り会館・来訪者のひとこと

○ 昨年も来ました。思い出してまた寄らせていただきました。ふっと一息安心…気持ちよく…

(長岡市)

○ 昔の立派な家があるなあと思いい、おそろおそろ入ってみました。お茶をごちそうになりお話を聞かせてもらい、入ってきて良かったです。ありがとうございました。

(見附市)

○ こんな家に住みたいです。いつか建てるぞ！

(栃木県)

○ たたみの香りが良く、お母さんの人柄が温かく良い思い出です。また来ます。

(長野県)

○ 昔の面影がよく再現されていて、落ち着いた感じがします。

(兵庫県)

○ 出雲崎初体験させていただき、のんびり楽しい一日を過ごさ

せて頂きました。

(東京都)

○ 晴天の日には、また夕日を見に来ます！お話ありがとうございました。

(新潟市)

○ タイムマシンで昔に戻ったようで、なつかしく、のんびり出来ました。

(神奈川県)

○ 良寛さんをしのびながら散歩をしました。

(新潟市)

○ 友人と二人で妻入りを見に来ました。この街並は残してください。又来ます。

(東京都)

○ 興味津々の出雲崎に来られて感激です。もちろんジェロさんの紅白出場期待しています。

(東京都)

○ 柱に感動しました。日本の誇るべき文化です。

(東京都)

あとがき

この度、東北関東大震災（東日本大震災）の被害に遭われました皆様、ならびにご親戚の皆様には心よりお見舞い申し上げます。想像を超える大津波の被害が著しく、毎日同じような報道番組を見ているのが辛くなりテレビを消してしまふことがありました。自分には何が出来るのか、考えても何も出来ないことに対して悲しくて仕方ないです。

一日も早く復興が出来ますようにお祈り申し上げます。

この、かわらばんは被災地には届きませんが、町民一同応援致します。頑張ってください。朝日は必ず昇ります。そして、頑張り過ぎないで下さい。避難している皆様とお話をして、一人ぼっちではないことに気づいて下さい。

皆様の笑顔が戻る日を、心よりお待ちしております。

石井町 納谷 稔